

クラス番号	214	ゼミタイプ	サービスラーニング（NPO）型
		担当教員名	菊池 遼
テーマ	知多半島の NPO で学ぶ市民参加		

ゼミナール概要

目的、内容、方法等：

皆さんがフィールドとする地域は「知多半島モデル」などと呼ばれ、NPO を中心とした地域福祉が盛んな地域でした。知多半島発の「0 歳から 100 歳までの地域包括ケア」という NPO から出たスローガンは、誰しもが暮らしやすい地域福祉を目指した理念です。

しかし時代は変わり、市民のニーズも変わってきています。今まさに知多半島における地域福祉のあり方が変わろうとしています。かつて知多半島の NPO の担い手は女性が中心でした。特定非営利活動促進（NPO）法や介護保険制度が始まった 2000 年前後は、まだまだ専業主婦も多かった時代です。家庭の中でジェンダーロールを押し付けられていた彼女たちが活躍する場として NPO があったのです。しかし今の時代を見てみたらどうでしょう。共働きとなって、女性が働くのが当たり前になり、必ずしも女性が活躍する場は NPO ではなくなっています。

地域課題もより複雑になってきています。現在は複合化したニーズを抱える課題世帯が多くあります。貧困や格差の問題は地域に暗い影を落としています。社会的孤立も深刻な問題になっています。現在は地域の担い手が減ってきている一方で、社会的課題は増大し、支援困難事例と言われるようなニーズを持つ世帯は増えています。

そのような地域基盤が揺れ動きつつある中で、学生である皆さんが地域に飛び込み、現状の社会課題を肌で感じ取ってほしいのです。こういって大袈裟に聞こえるかもしれませんが。サービスラーニングがすべての問題を解決できるものでもありません。しかし小さなことから課題解決や地域貢献活動を行い、NPO の活動に参加しながら少しずつ社会を良くしていけるはずです。皆さんも地域に出ることで、市民性を獲得し、将来の地域の担い手となることを期待しています！

授業計画：

- 4・5 月 NPO や現地の課題・ニーズを知る
- 6・7 月 地域貢献活動の計画を練る
- 8・9 月 NPO での地域貢献活動
- 10・11 月 活動の振り返りと報告会
- 12・1 月 グループ研究

担当教員からのメッセージ



2011 年に東日本大震災が発生したとき、僕は大学生でした。ボランティアとして被災地に入り、多くの NPO で活動する人々と出会いました。彼らが懸命に活躍する姿を目の当たりにして「これからは NPO の人たちが社会を支える時代なんだ!」という直感が生まれ、大学院で NPO の研究をすることになりました。実際には NPO が活躍する時代はもっと前から始まっていたのですが、初めて NPO の世界に触れたのが大学生のときだったのです。それまでは気付きませんでしたが、NPO という存在はとっても身近で、NPO によって社会が支えられている場面もたくさんあります。サービスラーニングを通じて NPO が活躍する社会を実感してみましょう！